



津定書目録

松屋津白

73
6861



73
6861
卷



昭
年
日
寄
贈
氏

44 2876

檢度所定書相檢治法重訂契

事以房中事所檢心附根地是

極心必能

字

御定書目錄

壹 目次

貳 裁許治書

參 地願入

肆 設式入

伍 宣法上願再

陸 願再

七 諸及人水不智所事

八 裁許仕事

九 於味銘宅事

十 重治及人智事

十一 用水影回院以深事

十二 海所見事

十三 裁許用澄撥事

十四 文叔頭不事

十五 叔日移事

十六 海所地改事

十七 語證文事

大盜械火所事

十九 回思所任事

二十 省裁許後事

二十一 國新所事

二十二 汪族炮事

二十三 志山留場事

二十四 藍戶事

二十五 某報用材事

二十六 其人何據不知他事

二十七 老施路事

二十八 英國新事

克地取廷府系云鎮之事

平水代派之事

至日烟果膏膏云德地之事

至質地少他之事

至質地沛系今日限之事

至利果官之事

至云水之信合之事

至分以之事

至七家質多外云言合之事

至八二至質因苦入雲派之事

至九也水多初云捌之事

早信合事白紙子捌一事

至信澄文之事

至讓後補之事

至奉公人信合所之事

至信身公人信信之事

至欠信身公人信信之事

至六按子也信公之事

至七信身子信信之事

至八信身如之事

至九信通之事

至十女把信外之事

五十一 乞流不文施之事

五十二 新提神佛之事

五十三 亥死日獲之事

五十四 三台情實遠之事

五十五 盜賊人法之事

五十六 留宿算之事

五十七 惡黨訴人

五十八 死控物之事

五十九 控物之事

六十 人勾引之事

六十一 謀書深判之事

六十二 火札控文之事

六十三 改控重福之事

六十四 中獄法之事

六十五 似令張某之事

六十六 出火告之事

六十七 火附錄之事

六十八 人教麻附法之事

六十九 下子人不成事

七十 怪我之免之事

七十一 婚禮石之事

七十二 暴者法之事

七十一 廣德院之事

七十二 湯水人法住之事

七十三 礼心人教之事

七十四 括多及下法住之事

七十五 科人為立退之事

七十六 人相書之事

七十七 科人為立退之事

七十八 捲回字之事

七十九 在為再相法住之事

八十 穿迹之事

八十一 过處人之法住之事

八十二 塩造死骸之事

八十三 漏承之事

八十四 吾宿片月之事

八十五 縁後之事

八十六 質田文之摺之事

八十七 相旅人之宿之事

八十八 百姓所人常口之事

八十九 新田之事

九十 關所地誌之事

九十一 山法直者牌之事

九十二 材方帳面之事

九六 恒惠事五者出軍之事
九七 書夢女出也往事
九八 逃散入金成以者再圖事

九 雜抄梓私造用者事

百 浙任並任形事

一 自安事

一 宗社事 門前園八員外私願圖

三月之寺社願圖

六月書會社

江戸町中

月書回

一 國八 在浙領私願圖

以四月月書

十月書

他 双方

不 情明

十 書

許 定

吟 味

出 入

書 言

一 座

他地頭那... 中... 中...

上... 上...

一 所科... 入... 入... 入...

... 上... 上... 上... 上...

... 上...

一 寺社... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

... 上...

四 所成... 入... 入... 入...

一 所成... 入... 入... 入...

... 入... 入... 入... 入...

地頭... 願... 願... 願...

一 加判... 入... 入... 入...

... 入... 入... 入... 入...

... 願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

一 諸願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

... 願... 願... 願... 願...

雜記... 再之... 月

一 親子兄弟... 親... 再... 不及... 也

下 始... 親... 每... 達... 中... 其... 之... 所... 對... 候

以... 雜... 親... 之... 言... 上... 旨... 之... 旨... 之... 旨

身... 在... 其... 中... 也

但... 雜... 親... 之... 奉... 新... 而... 之... 旨... 上... 旨... 中... 旨

因... 始... 右... 奉... 指... 中... 旨... 院... 得... 以... 辨... 前... 人

百... 姓... 之... 怨... 言... 也

一 三... 奉... 新... 亦... 雜... 也... 其... 旨... 之... 旨... 之... 旨

亦... 始... 其... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

之... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

上... 旨... 也

一 親... 親... 親... 者... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

雜... 親... 也... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

中... 旨... 之... 旨... 也

六... 箱... 也

一 雜... 親... 也... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

再... 始... 其... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

為... 人... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

但... 其... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

之... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨... 之... 旨

一 度之政箱所子强先公後又入以五國在
印字排

但自強之官部中其自強之府止中

預也者印字排

七 諸役人非分私由部事

一 諸及人非分私由部事之役人正通
連移又分海也預也其台同也
以分其計裁件成以同也

八 裁件任是事

一 奉行諸部及私願之裁件事
事法處年月之裁件非也

中五年 諸部及私願之裁件事

許部及私願之裁件事

證據也其連之裁件必定之矣

其見也其內之裁件官撤事

但事也其內之裁件官撤事

止也其內之裁件官撤事

其內之裁件官撤事

一 不相之裁件官撤事

改之裁件官撤事

九 其事也其內之裁件官撤事

一 其事也其內之裁件官撤事

後生裁奉新宅三日移小撤松以時
浩一此許候之裁許下分事

一 吳中曰拙古是許定而此水成以定

書吳中曰成立序因吳中曰成

父母外之吳中曰拙古是許定而此水成以定

後生裁奉新宅三日移小撤松以時

浩一此許候之裁許下分事

吳中曰拙古是許定而此水成以定

一 吳中三十一日吳中三十一日

一 吳中三十一日吳中三十一日

一 產程七日二日

右通曰拙古是許定而此水成以定

以月宮金龜因私心許定而此水成以定

十重許候人許定而此水成以定

一 浙老中許定而此水成以定

吳中曰拙古是許定而此水成以定

吳中曰拙古是許定而此水成以定

吳中曰拙古是許定而此水成以定

一 用水惡水新田餘文入分事

一 諸木材用水惡水新田餘文入分事

一 批合吳入許定而此水成以定

吳中曰拙古是許定而此水成以定

台中之時狀皆於其上不在涉便
乃必及今也之千多細記之及
吟味事

十二篇所見之詞言入而事

一編所之可謂及列之白編修撰者到

在諸諸也之文多之內事之自稱

十篇也之詞言也之內之極也

右海島入用之詞言也之內之極也

只也事

一編所之詞言也之內之極也

加也事

但字極是也之詞言也之內之極也
列也詞言也之內之極也

十三載許之詞言也之內之極也

一御所下讓狀古禮又求地也

用也詞言也之內之極也

三用事

一奇社務也之詞言也之內之極也

相預也之詞言也之內之極也

三致也詞言也之內之極也

一奇社務也之詞言也之內之極也

預言也。按。在。自。不。得。止。于。預。言。於。
依。預。言。之。以。其。之。致。以。時。事。

一。寺。社。願。之。所。以。其。性。非。而。成。中。之。下。
教。寺。院。地。致。神。靈。之。以。其。性。非。而。成。中。之。下。

步。以。上。之。致。以。時。事。

一。宗。法。之。於。其。年。時。之。成。之。上。中。之。下。
其。性。非。而。成。中。之。下。及。

一。致。以。時。事。又。此。宗。法。之。更。以。出。金。上。

一。致。以。時。事。

一。出。入。報。預。不。得。止。于。預。言。

一。火。而。盜。賊。人。報。向。行。逐。罪。者。私。

俗。心。非。不。惜。費。之。而。至。其。道。之。以。隱。

賣。身。

右。之。子。之。儀。之。不。報。以。成。於。也。

為。報。中。之。方。知。也。

十。五。及。日。致。以。時。事。

一。三。軍。報。形。之。以。其。日。神。之。日。之。限。也。在。國。上。

抱。合。也。之。性。非。而。成。中。之。下。

十。六。端。而。見。之。在。世。也。之。事。

一。國。報。境。之。也。其。子。之。存。修。身。大。概。之。也。

者。道。之。不。及。其。也。其。性。非。而。成。中。之。下。入。他。不。

一。後。之。格。按。按。也。之。也。之。事。

一拾便之書之雜文及兩政壇八中書元在

思公材境之師代官中書之也其地官師

而八國款之也之也之也之也之也之也

之青載詳以事

一田和山林未入修其書之也雜文地改之

以之也之也之也之也之也之也之也

十七 雜文之書

一 書之不致得信之押之經證文之也

雜文之也之也之也之也之也之也

之有載詳以事

十八 盜賊火所之書

一 盜賊火所之書

之也之也之也之也之也之也

十九 回惠所任之書

一 運罪邪與之教也

之也之也之也之也之也之也

之儀也

之也之也之也之也之也之也

之若性也

右回思也

之也之也之也之也之也之也

相止邦... 西恩

七... 及...

但... 西恩

干裁... 裁...

一裁... 中... 裁...

一裁... 裁...

一裁... 裁...

中... 放

一... 裁...

一... 裁...

不... 裁...

得... 裁...

一... 裁... 中... 裁...

但... 裁...

一 田州府... 政... 代... 事

十七 縣... 事

一 相... 事

... 事

... 事

一 盜... 事

一 盜... 事

味... 事

十九 回... 事

一 送... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

之...
...
...

...

一...

...

...

...

...

...

...

...

...

一...

...

...

...

...

...

一...

...

...

了割合

但喜子人別除

一山林野原入舍地別之他百姓

大一同之書別事

一祭礼古化生加之書別事

一前之別合極重之令不共分

之通一書別事

一其後始之書別事

一以上事許紙紙請自事也之始

始事之書別事

但後始請之書別事

後始之書別事

後始之書別事

後始之書別事

主七人別帳不能者之書別事

一地之書別帳不能者之書別事

之書別帳不能者之書別事

主八人別帳不能者之書別事

一祭礼古化生加之書別事

右之田畑家屋浦家放開所

但始之書別帳不能者之書別事

主事之書別帳不能者之書別事

一 中道致田相家起家國新

一 怪道致田相家國新

一 下子人子及國新世外望人子望方

一 道致和推官神利信抱以

一 田相家起家國新為家後言者

一 及國新世

一 涉技持人子百道致以百為相願

一 百姓之及此言成以之國新世願

一 五上言言言波草

一 但田相家起家國新後文成神子

一 定法若大金流不足多

地面之波若高首流其之六世地

一 地面之波代合之先年自願

一 質名之波名之先年自願

一 合之之波代合

一 史出此重如者又之各所之長而人質

一 重合金子之重合令之形帳而之

一 以光信之不及上納

一 但信之有合之不持力之

一 二為致上納事

一 在所未之重合及質入之重合也此重合

一 家也神國新之合金子之重合及質

古以之禮文喻味之上於古遠而人崇祀

日利之

二九比以法訴

一 或與死鬼各營爭道取以白烟之上亦

拂也互姓村之

怪之月未進於

一 林之舞從從堂令強節法訴

逃散者若

五結者

若力所

但七

一 地頭對法訴

百難若

一 法訴既

一 同宿設

一 頗也地

以若

以取

一 為代

一 子漢

一 門訴

一 門訴

一 同部取債者百... 一 門訴... 以資不及...

一 門訴... 以資不及... 以資不及...

一 田相家... 田相家...

但地... 田相家... 田相家... 田相家...

田相家... 田相家... 田相家... 田相家...

一 田相家... 田相家... 田相家...

一 田相家... 田相家... 田相家...

一 田相家... 田相家... 田相家...

知...

以之流地

但此等文字皆係... 子孫之遺蹟... 乃是...

此等文字... 乃是...

一 貨地... 乃之地方... 乃之地方...

一 貨地... 乃之地方... 乃之地方...

乃之地方... 乃之地方...

此等文字... 乃是...

又貨... 乃之地方...

一 乃之地方... 乃之地方...

乃之地方... 乃之地方...

但此等文字... 乃是...

一 乃之地方... 乃之地方...

乃之地方... 乃之地方...

此等文字... 乃是...

一 乃之地方... 乃之地方...

一 乃之地方... 乃之地方...

乃之地方... 乃之地方...

地由... 小他人公地... 考到...

但... 考到... 考到...

德文... 考到... 考到...

一 小地... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

一 借... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

五科

但... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

一 借... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

也右... 考到... 考到...

一 于... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

一 借... 考到... 考到...

... 考到... 考到...

但... 考到... 考到...

一 今或于也

今或于也

一 今或于也

今或于也

一 今或于也

今或于也

一 今或于也

今或于也

一 治家又非用達所入亦非領受也

一 地代店賃負書入今或于也

一 延高元辛心事之洋八每月四日

一 十二日浪洲方官中右日

一 古跡之三月月之由及宛如

一 今或于也

一 但或于也

一 其或于也

一 中或于也

一 日或于也

一 其或于也

一 地代分二十日限洲方官中

一 同或于也

一 右或于也

一 左或于也

一 三才利是定法

一 一家貨物

一 半或于也

三刻

三刻

或刻

三刻

全三刻

或三刻

三刻

三刻

二十六

一 集刊有法請自德用刻於文五

定之通其居本戶錢定法

附此帳上紀代具全形

不字之字年號

利是書款字形

全法借金完

律官全及

但證文讓請

今之若

一 今之若

今之若

右若

今之若

一 百姓

地款

地款

一 每月日正日及夜の借合海等
所証計面裁許の事

二十七 五教中分方の事

一 貸方の割合と海心と由取等

分取借付等取中若し海心

海心算計分取割合者取取也

借方の若し取取中割合借付

一日進取取取取取取取

家賃貸主外言入能支拂方事

一 家賃貸主外言入能支拂方事

日限海方下中月

但日限の上取取取取取取取

日限内取取取取取取取取

右年未取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取

一 好願取取取取取取取取取

取取取取取取取取取取取

三十八 家賃貸合海等事

一 合取取取取取取取取取

一 合取取取取取取取取取

一 合取取取取取取取取取

一 合取取取取取取取取取

11

一 田相履及二重。受命。命之中。道。及
以。各。種。道。教。和。列。人。而。拂。

但。二。重。書。令。日。以。之。受。命。亦。初。

令。子。為。水。波。後。令。子。受。命。亦。初。

五。上。二。波。在。各。部。列。人。到。命。令。子。

五。上。之。中。道。取。入。波。之。令。子。在。於。

佛。受。命。之。日。以。之。受。命。亦。初。

一 法。高。相。代。令。子。亦。受。命。亦。初。

政。又。之。受。命。亦。初。式。亦。拂。以。後。

五。上。者。令。子。亦。受。命。亦。初。

指。受。命。之。日。以。之。受。命。亦。初。

但。先。入。命。中。道。代。令。子。亦。初。

如。人。相。受。命。之。日。以。之。受。命。亦。初。

拂。指。受。命。之。日。以。之。受。命。亦。初。

也。當。之。日。以。之。受。命。亦。初。

也。當。之。日。以。之。受。命。亦。初。

四。十。只。取。為。初。之。事。

一 為。物。出。受。命。亦。初。式。亦。拂。以。後。

但。為。物。代。令。子。亦。受。命。亦。初。

一 亦。為。物。式。波。取。信。波。揮。順。其。取。

板。門。上。系。死。龍。亦。入。命。亦。初。

但。受。命。之。日。以。之。受。命。亦。初。

五之私痛中必打者物改口私
从之科提也文上高言重文也

一 犯此道法者初以刑残之者初置
五者初刑之刻命浦法又重初
死之五以各名於生和械門

一 因盜私物自今古初入初盜配
分五者初罪

一 同初初之者初到今初初者初
初初初者至追故

一 早。信金在初初初初初

一 信金在初初初初初初初

五者初初初初初初初初初

初初初初初初初初初初初

但合之信之科自初初初初

例初初初初初初初初初初

一 早。信金在初初初初初初

一 合銀信用初初初初初初初

立之初初初初初初初初初初

者名初初初初初初初初初初

信初初初初初初初初初初初

信初初初初初初初初初初初

早之信初初初初初初初初初

一 簿房及簿房之司用之江寧西卷
不致到入而小之其厚也及之
只花奉只人既合淋方之事

一 身之人既年日限清人際方寸寸

但日限之內半全也其日十日三日也

天上一字清之身之限中其更

公更人又一人之古其也其也

中自或生之生之之也

一 至人之清人之事也古也形貌文

至也其清清人之事也其也

既合淋方之事也其也

但右家之也其也清人之事也

字也其也其也其也

一 奉公人病也其也其也其也

大也其也其也其也其也

清人國也其也其也其也

但既合淋方之事也其也

子也

一 至也其也其也其也其也

至也其也其也其也其也

至也其也其也其也其也

但既合淋方之事也其也

三月

一 欠原奉之人請人... 十日限日延... 六日限日延... 十日限日延...

一 迎取... 他全... 三波事...

一 迎取... 十里四方...

一 奉... 但奉... 更...

一 原... 宿...

一 手... 或...

一 於... 人...

一 但... 政...

一 一... 一...

一 宿... 一...

望佛

九
進加銀令人名考子月了月了
請立重以事之人較少者之令

改者之身之人之信屋滿方十

甘如七人富以文存以取

宿之十月所取也也也之科

一經令人富之身好才志背人地

身能之有未三到用自以精之

也重以事之人改身源也之人言不

者均又請之即一事之身也之

令之身也之請人國和江岸排八

奉之人回以

但須令其歸之請人之科身之人

子須

一六也身之人沙江到排

一子身之身風之身迎合格身之難相

代令積之格身之身以六犯罪格身以

以下難相身入事報

但先入軍中身之迎之身於信之

格身之心身之身之人能身之身

身月身之身之身之身

一校之身之身之身之身之身之身

雜物成令積了 死罪

但令是與常以雜物在 金聖教人

入軍中月之迎之亦於供之也

以之有主人形也之使令十月

江戸之女子也之取之十日後

一 乃以是也之將之迎波之也其技

一 孫令請也之人之可許試也其可也

一 浦有波也之向也他於之也其入軍

尸自令也之也其教風教

但而人其親也之身也其訂自令也

一 上之式也其也又其也其也其也

人其也之也其也其也其也其也

弟度及也其也其也其也

一 諸人其也其也其也其也其也

一 乃其也其也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也其也

其也其也其也

一 乃其也其也其也其也其也

一 乃其也其也其也其也其也其也

一 乃其也其也其也其也其也其也

乃其也其也其也其也其也其也

乃其也其也其也其也其也其也

早七 控...

一 控...

他切...

一 控...

...

...

...

早八 卷...

一 控...

...

...

...

...

...

...

...

早九 隔...

一 隔...

...

一 隔...

...

...

一 清人令其子之身... 宗... 改

但... 宗... 宗...

一 而... 宗... 宗... 宗...

但... 宗... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗... 宗...

一 此... 宗... 宗... 宗...

一 弟之兄心欲害人殺
弟 容通之罪

一 容通致公喜曰男有 死罪

一 容通與男有夫是月於前於
後云云

但看容通之男之通通之
夫之心欲有之

一 女因容通之容通中感或容通受
以男之夫殺前之

於不分明夫中追殺

一 容通與之容通之男之通通之

上獄門

一 容通之容通之男之通通之獄門

一 之人之容通之男之通通之獄門
致之男之罪

一 夫有之通通之男之通通之獄門
以去死罪

但大難之容通之男之通通之獄門
獄門曰於通殺

一 容通之容通之男之通通之獄門
容通之容通之男之通通之獄門

獄門

一姊妹伯母適之致密通其男也
在國那人多事

一離別狀不知遠近其以心志之相排

但利欲抱之家成在江戶林

一離別狀不知他處何處之親遠其科

一離別狀不知他處何處之親遠其科

其通人

但右左持其志之科

一三人之相談密通其科中過其科

一幼年之相談其科為性我之志也

一丈夫之相談其科為性我之志也

男子須

一女子之男密通之人之江戶

一他之家身又所不密通其科

江戶林

一丈夫之相談其科為性我之志也

一密通之相談其科為性我之志也

一男中之相談其科為性我之志也

其通中之相談其科

一但男之相談其科為性我之志也

二日晒之上非人多一男子其科

二日晒之上非人多一男子其科

一 造如抱之修之

一 寺持之修

一 取修之修 晒之 中寺 解乃 法華

之修 修之

一 密若之修 寺持之修 在 修門

力之 二身 沉不 交 法 施 止 法 修 年

一 法 勤 以 志 致 政 宗 中 以 之 修 修

但 勤 若 修 人 之 修 之 修 之 修 之 修

修 中 以 志 不 修 其 志 之 修 之 修

一 法 受 之 止 勤 以 志 之 修 修

但 致 勤 之 修

之 修 修

一 勤 以 志 修 之 修 之 修 之 修

但 致 勤 之 修 之 修 之 修 之 修

一 法 受 之 止 勤 以 志 之 修 修

於 致 修 之 志 之 修 之 修 之 修 之 修

之 修 修

一 勤 以 志 修 之 修 之 修 之 修

法 不 致 勤 以 志 之 修 之 修 之 修

但 修 受 之 止 勤 以 志 之 修 修

之 修 修 之 修 之 修

一 同 法 勤 以 志 之 修 之 修 之 修

之 修 之 修 之 修 之 修 之 修 之 修

一 新親神佛之事

一新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 新親神佛之法

一 惟知... 漢官之科...

但... 惟...

...

一 六 盜人...

一人...

...

一 盜...

...

一 人...

...

一 盜人...

...

一 片...

一 盜...

...

...

一 盜...

...

一 盜...

...

...

一 家元 悪入 盗人 云 於 盜物 打 運 死 罪
此 法 律 上 怪 盜 取 取 多 者 取 押

一 沖 林 竹 本 中 合 成 云 主 追 取 取 罪

一 盗 取 中 追 取 口 取 之 罪

一 途 中 盗 取 之 罪 一 旦 取 之 者 追 取 罪

一 盗 取 之 者 金 取 之 罪 追 取 之 罪

一 橋 之 高 楠 又 之 氏 生 家 元 盗 取 之 罪

一 志 取

一 怪 盜 取 之 罪 取 之 罪 取 之 罪

一 湯 屋 之 欠 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 物 之 正 取 之 罪 金 取 之 罪

但 年 事 重 者 之 罪

一 盜 物 之 罪 在 盜 取 之 罪 取 之 罪

之 罪 取

但 年 事 重 者 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

一 盗 取 之 罪 取 之 罪

此乃四時中

但家松年故中身動事

一 盜人捕獲相去房口流三通也

商人者意以中付

一 盜人捕獲中付也此中盜人難

合意於中付也此中盜人難

地以中付也此中盜人難

收其京中府

但商中府也此中盜人難

此中盜人難

此中盜人難

此中盜人難

此中盜人難

一 今中言入然矣大道中一切解也

此中盜人難

一 都中言入然矣大道中一切解也

此中盜人難

此中盜人難

一 今中言入然矣大道中一切解也

此中盜人難

此中盜人難

此中盜人難

一、盜劫之為害於世也亦甚矣。然其所以為盜劫者，皆由人心之貪婪。人心之貪婪，則物重而心輕。物重而心輕，則利令智昏。利令智昏，則不顧名節。不顧名節，則無所不至。無所不至，則盜劫之禍隨之。此盜劫之所以為盜劫也。然則盜劫之禍，豈可忽乎？

夫盜劫之禍，其害於世也甚矣。然其所以為盜劫者，皆由人心之貪婪。人心之貪婪，則物重而心輕。物重而心輕，則利令智昏。利令智昏，則不顧名節。不顧名節，則無所不至。無所不至，則盜劫之禍隨之。此盜劫之所以為盜劫也。然則盜劫之禍，豈可忽乎？

一、盜劫之為害於世也亦甚矣。然其所以為盜劫者，皆由人心之貪婪。人心之貪婪，則物重而心輕。物重而心輕，則利令智昏。利令智昏，則不顧名節。不顧名節，則無所不至。無所不至，則盜劫之禍隨之。此盜劫之所以為盜劫也。然則盜劫之禍，豈可忽乎？

此書實家法也 按今之字

但書家之字與之字和官字之字上波圖以

志上代字之字廣一丁下

一 官也 亦如凡形者亦不亦在也

能也 能又非在在方之形也

亦如凡形也 志上代字

一 官也 亦如凡形者亦不亦在也

能也 能又非在在方之形也

一 官也 亦如凡形者亦不亦在也

能也 能又非在在方之形也

但所觸之字於神也亦在之也

一 但公定有之 實物 但今則入書中

以名亦如之字 神字

一 文家之字 亦如凡形者亦不亦在也

能也 能又非在在方之形也

亦如凡形也 志上代字

亦如凡形也 志上代字

但書中世字 亦如凡形者亦不亦在也

亦如凡形也 志上代字

亦如凡形也 志上代字

亦如凡形也 志上代字

亦如凡形也 志上代字

一 謀書謀列

一 檢物檢書り之晒之

子ハ所奉分て有る事

ハ所成中人ハ所成也

也六月所成也

少ク檢書者ハ所成也

辛 人勾引

一 火ヲ自引

但自引列命

連放

一 謀書謀列

一 謀書謀列

似加判人

一 謀書謀列

罪科

檢書

檢書

檢書

檢書

辛 欠札

一 連帳

一 連帳

一 平治元年... 延和元年...

一 對之儀... 奉能或人...

傳... 令... 若...

八...

但...

...

一 巧...

...

...

...

一 重...

一 部...

...

...

...

...

...

一 皇...

...

一 責...

...

字中 裁致 若此 法 宜 宜 宜

一 親 琳 道 宜 裁 致 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

一 裁 致 宜 宜 宜 宜 宜 宜 宜

書影燒五... 七月七日... 忌

一 沂水日波... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

一 赤社門前... 赤社... 赤社...

... 赤社... 赤社... 赤社...

沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

... 沂水... 沂水... 沂水...

一 火附... 火附... 火附...

... 火附... 火附... 火附...

... 火附... 火附... 火附...

一 人... 火附... 火附...

火附... 火附... 火附...

日本... 日本... 日本...

... 日本... 日本... 日本...

... 日本... 日本... 日本...

但此を以て火附りて居るは罪なり

火罪より及ぼす

一 火附押入人殺す者海に墮るる浪に振れ

一 火附りて卒に於て死す

一 死に人殺す者其罪重し

一 一箇教二日晒一日落極之上に於て

但此を以て罪なり

一 古き教り共し以罪

但此を以て火罪切欠者

正死罪

一 地を踏む者引是獄門

一 白紙を踏む者死罪

但此を以て罪なり

一 己の親殺す者引是獄門

但此を以て罪なり

一 親殺す者引是獄門

打撲切截りて

一 男伯父の母兄弟殺す者引是獄門

口を以て自死す者死罪

一 遊引す者其子實子ヲ殺す者其罪重し

六、不計教之利害利權統之
但辨其端始教者日所不交之
其之度之其目之用亦止可也

抵及此則亦以之

六、人少教者其人多而後其教之時

八、教之利也其于人

一、若其有諸人少教之時也

一、自之也其人之利也其人之利也

教者止之也其人之利也其人之利也

人少教者其人多而後其教之時

但教者之者 教門

一、大教者人少教者其人多而後其教之時

一、人少教者其人多而後其教之時

但教者之者 教門

一、若其有諸人少教之時也

一、自之也其人之利也其人之利也

人少教者其人多而後其教之時

一、過切致者引也其死罪

一、彼教者亦流隔死其人之利也

水之罪

一、車引教者其人多而後其教之時

一人當方引者名所為
三科之部之口之科

一曰為政性我之そ方引引志を為
以不富方引引七年進取を為

一曰為政性我之そ方引引志を為

一曰為政性我之そ方引引志を為

一曰為政性我之そ方引引志を為

一曰為政性我之そ方引引志を為

一曰為政性我之そ方引引志を為

一人之腹背は若徳波之依底を為
町人百姓報之牧

一 離別之書 存身之全書之上 卷之四 國 郡

一人之下

一 乃心志緒之志又治人、教或之存

以志治人之哲識之、寺持一之、至

一曰

一 且惟所之志惟町人百種之志之

法外之難之志不屈之志之、乃止之

切取之志之、乃止之、乃止之、乃止之

一 齋漢之、乃止之、乃止之、乃止之

一 乃止之、乃止之、乃止之、乃止之

一 俾人、乃止之、乃止之、乃止之

一 邪曲之親親誼者今教家
內從之流以之辨

但教家親教口耳

一人之教以之而投其有之曰能之

子所教之志之遠近之久而近之

谷之中心道教但教口耳

一家禮未之其親之禮矣其禮自

此而為之死罪

但伯父伯母禮死而中道取

一親之教祀禮身之重也其相合

厥以材得入未也後之上也

擇隱於事教之重也其名也

但教口耳

一 尚也之友也其師人教家為禮

去其也

七寸之身人不能以在也

一 教之利也其也其也其也其也

其也其也其也其也其也其也

年也其也其也其也其也其也

教於中也其也其也其也

但教士方其也其也其也其也

人合也其也其也其也其也

親於形以長先中乃友也

一 祇附身自取也子人元人死以禮

祇無平常之內傷病也

冬味之主也

七十一 怪我之書

一 子法地於謀人殺以

殺令親教為志

但取果名存命之內

以先於殺也

一 定以子矣

矣玉尚知在否

但二十日在否

一 怪我之書

親教也

但味之主也

七十二 怪我之書

一 石手櫻結

五十日

七十二 暴

一 沙城月

合

之

一 田舎の阿はれとてしるもの故
と云ふ事

但し其言事りて語之上 中道故

一 逆根心於心之致況當得藉

上人教之乃云極門

但此言事りて難く其言事りて極人

中道故

一 根藉法語乃其言事りて云云

逆故其言事りて極

七言。酒相人此法事

一 酒相人其言事りて云云

但此言事りて人其言事りて云云
其言事りて云云

一 酒相人其言事りて云云

應法其言事りて云云

但此言事りて云云

其言事りて云云

其言事りて云云

一 酒相人其言事りて云云

其言事りて云云

其言事りて云云

一 酒相人其言事りて云云

百有少如志二而排

一 酒類之類多矣。其所以進之者。全外

之類。故亦不可不設。故有以也。

之儀。此也。其所以助之者。以格別也。

其所以以攝之者。皆中。皆中。引渡

下

一 酒類之類多矣。其所以進之者。全外

之類。故亦不可不設。故有以也。

之儀。此也。其所以助之者。以格別也。

七人。應治之。事。

一 應治之。事。其所以進之者。全外

張

但應治之。事。其所以進之者。全外

四人。其所以進之者。全外

一 應治之。事。其所以進之者。全外

其所以進之者。全外

七人。應治之。事。

一 應治之。事。其所以進之者。全外

其所以進之者。全外

一 應治之。事。其所以進之者。全外

其所以進之者。全外

其所以進之者。全外

一 礼曰古火多附以乱气於外而明之死
罪或遠矣何擇也重祗親親也

百一

但為那者切教而切持也
一七二二得事

七七 格五也似中而法也一

一 子心也今之五年教也

親於也教也

一 子心也今之五年教也

一 曰盜殺曰大人分也

七十八 科人為遠也

一 大開又盜賊也

人象持也

曰

而

一 唯

大科人曰

辰

七十九 人相書

一 對

親教

右人相書... 或之... 門

他名... 文...

... 文... 科...

八十科... 人...

一人... 親...

... 通...

... 科...

一... 人... 科...

... 人... 科...

... 人... 科...

... 人... 科...

... 人... 科...

... 人... 科...

一... 人... 科...

... 人... 科...

... 人... 科...

一... 人... 科...

... 人... 科...

十一... 人... 科...

一... 人... 科...

一自北遊名將亦如公使任官一月

如北遊名將亦如公使任官一月
志中遊政

故名者惟重十二心得

一自後外之科之設乃以定之日

致一信味之內有直書其姓名之日

之設

一自後外之科之設乃以定之日

此非世之志也科設之

惟進取之科之名也

不名其姓之名也

一自後外之科之設乃以定之日

之設

一自後外之科之設乃以定之日

之設

但進取之科

居材之志乃如仕宦之科

身入事之上實如公使任官一月

重一月

一自後外之科之設乃以定之日

之設

之設

中權花龍細...

一 匪敢如...

一 匪敢如...

文人...

一 宿...

...

...

一 事...

一 日...

...

...

但...

一 也...

...

...

一 也...

...

...

一 过...

一 望...

...

...

いふは主前留置格を合分抱
月氣背りて之を二日一夜如
於使氣ありて之を二日一夜如
若くして交纏心氣付りて之を
歩行可同く之を二日一夜如
使りて之を二日一夜如
十八日種人死後後格を
一 數親殺國出時之計
古くは死後後格を二日一夜
至 則之を二日一夜如
笑 滔邪者之事

一 半全半附の室和漏也。乃其大
半之上海病也。此は血日之重なり。滔邪
也。

但道罪之者。主前留置格を合分抱
一十七日宿は月之事
一 滯之者。主前留置格を合分抱
之。主前留置格を合分抱
人。主前留置格を合分抱

但病人使氣之。滔邪也。
一 滯之者。主前留置格を合分抱
使氣之。主前留置格を合分抱

貨物之屬子種一事

但賣出之貨物之元金之價

在代金者亦須知之種一事

一 賣人亦須知貨物之重必以味之故

貨物之運送之法也

下指之法以貨物之運送之法

九十一 於旅人之宿也

船人於宿也

送貨之者不可拂何

子種

但服之之國者

九十二 町人百姓

一 町人百姓之事

重運取

九十三 但服之之國者

新田之事

為其拂之事

九十四 國之地

一 國之地

遠取之事

九十五 町人之事

一 町人之事

者知年之事

以本及王家於此之內...

如...

之定地...

在唐...

固是...

之...

...

...

一父...

...

...

...

...

一...

...

...

...

...

...

...

...

...

五上而排他其以故者上之利
九下行恩中者其軍之事

二 自後之利及未下付性思

昔吹而內合年二千息上之能

下。其知移日合年。其言先以名

中波之友及別其詳施入軍

石致者其排而能下付

但右排汝其在上也其詳

汝其也定其也其友及所法

一 合年其有能其有酒飲其有者

合年其有能其有酒飲其有者

合年其有能其有酒飲其有者

一 其日合年其有能其有酒飲其有者

日其也其有能其有酒飲其有者

其也其有能其有酒飲其有者

一 其物其有能其有酒飲其有者

其也其有能其有酒飲其有者

但以此者其也其有能其有酒飲其有者

其也其有能其有酒飲其有者

凡明

一 其也其有能其有酒飲其有者

其也其有能其有酒飲其有者

今書の上巻の終りに記す

一 但今書の中巻の終りに記す

一 部重者より部出者及び中巻の終りに記す

以下に記す

一 今書の中巻の終りに記す

一 部重者及び部出者

一 但今書の中巻の終りに記す

一 部重者及び部出者

一 今書の中巻の終りに記す

一 部重者及び部出者

但外巻の終りに記す

一 今九私撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

一 撰行造相用者

自教人書之說也

但引是神考之及引是古之

神考曰

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

引是神考之及引是古之

一引是神考之及引是古之

但引是神考之及引是古之

右八路

山嶽 抄譯 索象 伏見

尾張 駿河

甲斐 東海道 本勇海

中國 西子 國

但欠 和 以

一中 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

以 仍 先 河 山 書 的 高 山 江 中 付

不 為 將 手 中 付 以 仍 先 河 山 書

一 中 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

第 二 段 在 本 國 以 下 及 河 山 江 中 付

東 海 道 本 勇 海

生 烟 西 子 國

但 國 和 以 下

一 性 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

京 大 坂 用 府 東 海 道 日 光 野 中

生 烟 西 子 國

但 國 和 以 下

一 性 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

一 性 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

但 主 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

性 道 故 以 下 及 河 山 江 中 付

心得事

一自中泉之怪 宜死罪之者

一自退教之怪 宜死罪之者

一田畑之怪 宜死罪之者

一神文之怪 宜死罪之者

一檢便事之怪 宜死罪之者

一早古之怪 宜死罪之者

一自化之怪 宜死罪之者

一古之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一奴之怪 宜死罪之者

一退院之怪 宜死罪之者

一宗播之怪 宜死罪之者

一流播之怪 宜死罪之者

一改易之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

一門之怪 宜死罪之者

晒以仕重

一或至涉仕重之利也此種

但此等入侍公前之圖

何人自能之亦安

一右進為者後

所成亦力之故也

一於事於

亦河內也

亦

中進叔別

但其在

利信

年貢未進

一望拂

已

一取批

但

一自

時

進取中

一 濟同見心之病入五如流念取
中別因攝言乃也

一 音人仙住蓋遠海退好言成科禮教
信居村波西月外極妙言乃

一 座頭之教六科之修人少出法
之通言信名中散

一 非人全攝多淨在焉三念非人
頭之度

一 遠風非人全攝多淨在焉三念非人
少淨在焉三念非人

一 非人全攝多淨在焉三念非人
非人全攝多淨在焉三念非人

以志國非人全攝多淨在焉三念非人

右 淨定書之條之元文丑庚申年

五日 淨定書之條之元文丑庚申年

越先例不升淨定書之條之元文丑庚申年

之於又新度相定書之條之元文丑庚申年

寅年三月廿日

寺 松 丸 京

牧 傳 氏

町 初 沙 氏

池 錦 氏

根 肥 氏

曲 早 氏





蘇氏藏書